

令和7年度 要望に対応した新規課題と設定理由（農業）

研究課題名（細目課題名）	要望の概要／設定理由	研究の概要	作物研究室）	研究期間	試験研究基本 計画2025の 重点研究目標
中山間地域における水稻の良質安定生産技術の開発 （高品質米生産技術の開発）	（要望の概要）	「ミネアサヒSBL」の高温障害の発生状況を把握し、施肥等の栽培技術により白未熟粒の低減技術を開発する。また、「ミネアサヒSBL」の早刈りから刈遅れの収穫試験を実施し、収量、品質、食味への影響が無い収穫時期の範囲を明らかにする。	山間農業研究所 （稲作研究室）	R7～12	ウ（ア）
	一定の品質基準を満たした「ミネアサヒSBL」を付加価値のついた独自ブランドとして販売しているが、近年の高温により検査等級が1等とならない事例が見られるため対策技術を要望する。また、刈り遅れによる品質低下に対しては適切な収穫開始時期の解明を要望する。				
	（設定理由）				
	高温対策技術や適期収穫により「ミネアサヒSBL」の高品質生産に貢献できる。				
三河中山間地域向け水稻品種の開発 （いもち抵抗性を備えた極良食味水稻品種の育成） （いもち抵抗性を備えた水稻極早生糯品種の育成）	（要望の概要）	「ミネアサヒSBL」の耐穂発芽性を考慮した系統を育成する。また、「ココノエモチ」、「愛知糯131号」等の交配によりいもち病圃場抵抗性遺伝子を持つ糯品種を育成する。	山間農業研究所 （稲作研究室）	R7～12	エ（ア）
	「ミネアサヒSBL」において刈り遅れにより穂発芽が発生し検査等級が低下する年もあるため、穂発芽性の改善を要望する。また、糯品種においては「ミネアサヒSBL」と比較してもいもち病防除のコスト低減ができていないため、いもち抵抗性を備えた糯品種を要望する。				
	（設定理由）				
	「ミネアサヒSBL」の穂発芽性の改善により高品質生産に貢献できる。いもち病抵抗性を強化した糯品種によりいもち病防除の省力化とコスト低減に貢献できる。				
タマネギにおける内分球発生要因の解明と対策技術の開発	（要望の概要）	土壌条件や施肥方法によって内分球の発生状況がかわる可能性が考えられるため、タマネギの追肥の種類・追肥量・追肥時期を変えた栽培試験を行う。	東三河農業研究所（野菜研究室）	R7～R9	ウ（ア）
	豊橋地域におけるタマネギ栽培では、取引先からの要望の多い「もみじ3号」が主力品種として栽培されている。しかし、もみじ3号は結球内部に発生する内分球の発生が年々増加し問題となっている。内分球が発生すると、出荷等級が下がるためタマネギの収益への影響が大きい。このため、生産者から発生要因の究明と対策を求められている。				
	（設定理由）				
	東三河農業研究所では一条植えタマネギの栽培方法に関して試験を行っており、施肥などの栽培方法に関して知見がある。タマネギの内分球は生産者の所得に影響が大きいため、課題を設定し、対策方法を検討する。				

ジネンジョのむかご増収技術の確立	(要望の概要)	誘引棚の仕立て方の違い、反射シートの利用がむかごの収量に及ぼす影響を明らかにする。	園芸	R7～9	ウ(ウ)
	ジネンジョ栽培における摘心処理がむかごの収量へ及ぼす影響の解明、適切な摘心時期の検討 その他むかごの収量を増加する手法の検討				
	(設定理由)				
	むかごの収量向上は、ジネンジョ産地の維持に必要な提案である				
落葉果樹の生育・品質の予測・判別技術の開発 (データ解析を用いたイチジクの生産管理手法の確立)	(要望の概要)	‘サマーレッド’は樹勢が弱るとしなび果の発生が増える傾向であることから、当場の‘イスキア・ブラック’や‘ネグローネ’などの強勢品台木を用いた発生比較調査を行う。 また、隔離栽培条件下での再現試験にて、土壌環境モニタリングによる発生条件に関するデータ収集と解析を通じて原因解明を進める。	園芸研究部落葉果樹研究室	R7-R10	ア(ア)
	イチジク「サマーレッド」では、樹勢の低下と夏季の高温乾燥が相まって、しなび果の発生による大幅な減収が生じている。そのため、発生原因の究明及び対策技術の確立に向けた検討を行うことについて、知多農業改良普及課より要望があった。				
	(設定理由)				
	本件イチジク生産の約20%を占めるサマーレッドのしなび果発生による減収は大きな生産上の課題であり、取り組む意義は大きい。				
環境変化に対応した落葉果樹の安定生産技術の開発 (イチジクの樹勢低下要因の排除)	(要望の概要)	‘サマーレッド’は樹勢が弱るとしなび果の発生が増える傾向であることから、当場の‘イスキア・ブラック’や‘ネグローネ’などの強勢品台木を用いた発生比較調査を行う。 また、隔離栽培条件下での再現試験にて、土壌環境モニタリングによる発生条件に関するデータ収集と解析を通じて原因解明を進める。	園芸研究部落葉果樹研究室	R7～10	イ(ア)
	イチジクでは、アイノキクイムシ及びカミキリムシ類防除にガットサイドSを用いるが、近年虫に生産終了となることがメーカーから示されている。そのため、大体可能な技術確立を知多農業改良普及課から要望があった。				
	(設定理由)				
	イチジクの枝幹害虫である両種はひとたび加害が進むと、樹勢低下を加速し、生産性を著しく損ねる。本県イチジク生産性の維持のため、化学農薬に依存しない技術を含めて防除技術の確立に取り組む必要がある。				

繁殖性と肉質に優れた雌系系統種豚の開発	(要望の概要)	令和7年度にもと豚を導入し、令和12年度完成を目指す。新系統豚の改良目標は「繁殖性」と「消費者に好まれる肉質」とし、期間内に目標の系統豚を造成するため、L種とW種それぞれ国内から血縁の遠い種豚を導入する。また、アイリスL3とアイリスW3の長所を継承するため、畜産総合センターからそれぞれ導入する。その後、育種価を用いた選抜及び交配を行う。	畜産研究部 養豚研究室	R7～12	エ(ウ)
	繁殖性に優れ、肉質を維持した系統豚を開発して欲しいとのことであった。系統豚は、肉質・斉一性は評価をされているため繁殖能力や肉質をさらに向上させる事でより農家にとってメリットのある豚にして欲しい。				
	(設定理由)				
	農家からの要望に添った雌系系統種豚の2品種の開発により、本県で造成した種豚から生産される三元肉豚生産体制が維持される。				
名古屋コーチンの改良及び家きんの系統保存技術の開発(繁殖能力に優れたブラウンウズラオス系統の造成)	(要望の概要)	繁殖能力の優れたブラウンウズラオスの系統造成を始めるにあたり、初年度は①育種規模を8家系から24家系へ拡大し、②現地試験を通して現場のニーズを反映させた育種改良目標値を策定する。二年目以降は、閉鎖群育種による系統造成を開始する。	養鶏研究室	R7～16	エ(ウ)
	生産現場における近親交配による能力低下及び鑑別師不足の問題を解決するため、血縁的にも遠くかつ羽色による雌雄鑑別可能なブラウンウズラオスの育種改良と種卵の安定的供給を要望。				
	(設定理由)				
	近年、生産現場からの要望が特に強く、かつてない程ブラウンウズラの存在意義が高まっているため。				
遺伝子解析技術を活用した県産農産物及び病害虫等の識別・診断技術の開発(鳥獣害の迅速対応のための環境DNAを用いた判別技術の開発)	(要望の概要)	各獣種に特異的な遺伝子配列増幅プライマー作成するとともに、環境DNAを用いた判別技術を開発する。	環境基盤研究部 生物工学研究室	R7	イ(イ)
	環境中から害獣のDNAを検出する手法の開発				
	(設定理由)				
	本県が開発したSGF法を利用した獣害判別法により、効果的な被害防止対策の確立に貢献できる。				

マンガンによる農業用水管閉塞の原因究明と対応方策の検討	(要望の概要)	具体的な原因究明のために水質調査及びデータの収集等を行い、これらを基に水質シミュレーション分析等によるメカニズムの解析を行うとともに、対応方策についての検討を行う。	農業工学研究室	R7～11	イ(イ)
	パイプラインにマンガンが付着して農業用水の通水を阻害している事案が多発し、復旧のために多大な費用と労力を要している。そこで、具体的な原因究明と対応方策の検討を行って欲しい。				
	(設定理由)				
	マンガンが混入する経路の究明とメカニズムの解明、有効な対応方策の検討により、農業用水の安定供給に資することが期待される。				
作り刃金土の適切な品質管理及び現場管理手法の確立	(要望の概要)	県内各地で使用されている作り刃金土を対象に特性及び留意点等について検証し、作り刃金土の適切な品質管理及び現場管理の手法を明らかにする。	農業工学研究室	R7～10	イ(イ)
	ため池改修工事の堤体盛土に使用する遮水性材料(刃金土)のうち人工の刃金土(以下「作り刃金土」という。)については、品質確認が正確にできているか、また自然産出刃金土と同じ施工管理で問題が無いかといったことが危惧されている。そこで、作り刃金土の特性及び留意点等について検証して欲しい。				
	(設定理由)				
	作り刃金土の問題は、ため池改修事業を実施している事務所の共通の課題であることから、県内の作り刃金土全般について調査し、作り刃金土の特性や利用する上での留意点などについて検証し、県の工事標準仕様書への記載などにつなげていく必要がある。				